

第292回～第317回

☆放送時間☆

期間	曜日	時間帯
昭和52年10月3日～ 昭和53年3月27日	月	21時00分～ 21時54分

司会:小野寺昭(第292回～317回)
今陽子 (第292回～317回)
宍戸錠 (第292回～317回)

☆凡例☆

- | | |
|-------------|-------|
| ①サブタイトル・放送回 | ②出演者 |
| ③曲目(歌唱者) | ④放送概要 |

昭和52年

昭和52年10月3日

- ①「前夜祭Ⅰ！！」 #292
- ②小林旭、石原裕次郎(VTR)、菅原洋一、ちあきなおみ、小柳ルミ子(VTR)、森光子
- ③「愛の讃歌」(菅原)、「今日でお別れ」(菅原)、「夜へ急ぐ人」(ちあき)、「四つのお願い」(ちあき)、「粋な別れ」(石原(VTR))、「銀座の恋の物語」(石原・小柳(VTR))、「ラストダンスは私に」(今)、「涙を拾って」(森)
- ④ 小野寺昭、今陽子、宍戸錠の司会で、歌謡曲の”スタンダード・ナンバー”を中心に、スター歌手の魅力を披露し、幅広いナツメロ愛好視聴者に送る歌謡番組。
一回目は、菅原洋一、ちあきなおみ、小林旭らが出演。曲は菅原が「愛の讃歌」「今日でお別れ」、ちあきが「夜へ急ぐ人」「四つのお願い」など。
思い出の名場面として石原裕次郎の「粋な別れ」、石原と小柳ルミ子の「銀座の恋の物語」などがビデオで再現される他、今が「ラストダンスは私に」、森光子が「涙を拾って」ほか。

昭和52年10月10日

- ①「前夜祭Ⅱ！！」 #293
- ②布施明、五木ひろし、西城秀樹、小柳ルミ子、ちあきなおみ、岩崎宏美、赤木圭一郎(フィルム)
- ③「湖の祈り」(小柳)、「思秋期」(岩崎)、「ボタンを外せ」(西城)、「霧笛が俺を呼んでいる」(赤木(フィルム))
- ④ 布施明、五木ひろし、小柳ルミ子、西城秀樹、ちあきなおみ、岩崎宏美らの出演で送る。
まず小柳が「湖の祈り」、岩崎が「思秋期」を歌った後、“ラブ・スポット・コーナー”は西城が登場、ゲストの女性と初公開の秘密を語り合い、「ボタンを外せ」を歌う。
”今週のとおき”は故赤木圭一郎が歌った「霧笛が俺を呼んでいる」の16年前のフィルム紹介。

昭和52年10月17日

- ①「昌子命の恩人に…！？御対面」 #294
- ②水前寺清子、森進一、榊原郁恵、殿さまキングス、森昌子
- ③「女のまごころ」(殿さま)、「おかあさん」(森昌子)、「三百六十五歩のマーチ」(水前寺)、「カチューシャの唄」(森昌子)、「船頭小唄」(森昌子)、「虚空太鼓」(水前寺)
- ④ 森進一、水前寺清子、殿さまキングス、森昌子、榊原郁恵の出演で送る。
オープニングは殿さまキングスの「女のまごころ」。
スターの秘められた愛を紹介するコーナー”ラブ・スポット”は、森昌子がラーメン屋の山下さんと感動の対面をした後「おかあさん」を歌う。
”思い出のうた”は昭和42年にヒットした水前寺の「三百六十五歩のマーチ」ほか。
”錠さんのヒット曲狙いうち”は、森進一の新曲「東京物語」について司会の宍戸錠が質問する。
”花のリサイタル”は森昌子のワンマンショーで、曲は「カチューシャの唄」「船頭小唄」など。
ラストは水前寺の「虚空太鼓」。

昭和52年10月24日

- ①「アッ！さゆり初恋の人に御対面！！」 #295
- ②山口百恵、山下敬二郎、森進一、渡真介、石川さゆり、キャッツアイ
- ③「エルビスは永遠に」(山下)、「横須賀ストーリー」(山口)、「夢先案内人」(山口)、「めっきり冷たくなりました」(キャッツ)、「東京物語」(森)、「純情派」(渡)
- ④ 森進一、山口百恵、渡真介、石川さゆり、キャッツアイに、往年のロカビリースター山下敬二郎の出演で送る。
- ”ラブ・スポット”は、石川が中学時代の初恋の人と感激の対面をする。
- ”今週のとおき”は山下が亡きエルビス・プレスリーをしのび自作の新曲「エルビスは永遠に」を歌った後、プレスリーからペンダントを贈られたエピソードを語る。
- ”花のリサイタル”は山口のワンマンショー。曲は「横須賀ストーリー」「夢先案内人」ほか。
- ”錠さんのヒット曲狙いうち”は、キャッツアイの「めっきり冷たくなりました」。
- 曲は他に森の「東京物語」、渡の「純情派」など。

昭和52年10月31日

- ①「季節風の秘密を握る女」 #296
- ②野口五郎、勝新太郎、和田アキ子、八代亜紀、野村真樹、中条きよし、李成愛
- ③「グッドナイト・ベイビー」(八代)、「なみだ恋」(李)、「座頭市子守唄」(勝)、「いつかどこかで」(勝)
- ④ 勝新太郎、和田アキ子、八代亜紀、野口五郎、李成愛らの出演で送る。
- ”ラブ・スポット”は、野口と一緒に旅行して同じホテルに泊まり、髪を溶かしてくれた女性と対面する。
- ”思い出の歌”は、八代の「グッドナイト・ベイビー」ほか。
- ”錠さんヒット曲狙いうち”は、司会の宍戸錠が和田の新曲「夜更けのレストラン」を分析する。
- ”今週のとおき”は、李が八代のヒット曲「なみだ恋」を韓国語で歌う。
- ”ミニ・リサイタル”は勝が登場、「座頭市子守唄」「いつかどこかで」ほかを披露する。

昭和52年11月7日

- ①「ジュリー絶好調！チョコまつたけに興奮！！」 #297
- ②水前寺清子、坂上二郎、増位山、井上堯之、奥村チヨ、沢田研二、麻生よう子、森光子
- ③「そんな女のひとりごと」(増位山)、「走馬燈」(奥村)、「友達の唄」(水前寺)、「春子」(坂上)、「ふたりの方がいい」(小野寺)、「時の過ぎゆくままに」(沢田)、「勝手にしやがれ」(沢田)
- ④ 関取衆の中でも評判の美声の持ち主、増位山のほか坂上二郎をゲストに迎え、水前寺清子、沢田研二、奥村チヨ、麻生よう子らがヒット曲を披露する。
- 増位山の「そんな女のひとりごと」、奥村の「走馬燈」に続く、「思い出の歌」は水前寺の「友達の唄」ほか。
- ”錠さんのヒット曲狙いうち”は坂上の新曲「春子」を取り上げる。
- ”今週のとおき”は司会の小野寺昭が、自分のLP曲「ふたりの方がいい」などをテレビで初めて披露。同年12月4日付読売新聞東京版朝刊に小野寺の特集記事が載っているが、この時のこと

と思われる以下の文章が掲載されている。

先だってもテレビの歌番組で、ついに歌わされた。専門のオーケストラをバックにして——
「ナマ本番だったら必死で断ったでしょうね。VTRならミスしても撮り直しがきく、と歌の最中、しきりに自分に言い聞かせていました」
あとで気になって、ビデオのカセットにとり、自宅でこっそり自分だけで見た。
「もうちょっとマシに歌えないかって、グチばかりでした」

”花のリサイタル”は沢田のミニ・コンサートで、森光子の語りをバックに「時の過ぎゆくままに」
「勝手にしやがれ」などを歌う。

昭和52年11月14日

①「300回記念第1弾！」 #298

②森進一、あおい輝彦、和田アキ子、都はるみ、内山田洋とクール・ファイブ、由紀さおり、森光子、
ディック・ミネ、前川清、石川さゆり

③「旅姿三人男」(ディック・あおい・前川)、「裏町人生」(森進一)、「旅の夜風」(前川・都)、
「組曲・りんご」(女性歌手連)、「リンゴ追分」(石川)、「リンゴ村から」(都)、
「夜更けのレストラン」(和田)、「幸せへの道」(都)

④「にっぽんの歌」通算三百回を記念して、今週から四回にわたり歌の供宴を送る。

森光子の音頭で出演者一同の乾杯の後、三度笠片手のディック・ミネ、あおい輝彦、前川清による
「旅姿三人男」で幕開き。

視聴者リクエストによる”にっぽんの歌ベスト30”は、森進一の「裏町人生」、前川と都はるみの
「旅の夜風」。

”思い出のうた”は曾根幸明編曲の「組曲・りんご」を女性歌手連が特集。石川さゆりが「リンゴ
追分」、都が「リンゴ村から」などを歌う。

”ラブ・スポット”は和田アキ子の交友ぶりを披露、和田が「夜更けのレストラン」を歌う。

”今週のオリジナル”は杉紀彦作詞、曾根作曲の「幸せへの道」を都が披露。

昭和52年11月21日

①「300回記念第2弾！」 #299

②森進一、和田アキ子、都はるみ、石川さゆり、内山田洋とクール・ファイブ、由紀さおり、
朝田のぼる、中条きよし

③「長崎物語」(森)、「別れのブルース」(クール)、「港町ブルース」(森)、「涙の連絡船」(都・石川)、
「旅人よ」(朝田)、「酒ごころ」(中条)、「旅愁」(全員)

④先週に引き続いて、三百回記念月間シリーズの第二弾を送る。

視聴者リクエストによる”にっぽんの歌ベスト30”の中から、森進一の「長崎物語」、内山田洋と
クール・ファイブの「別れのブルース」で幕開け。

続く”競艶・港の演歌ベストスリー”は、森の「港町ブルース」、都はるみ、石川さゆりの「涙の連
絡船」ほか。

このあと朝田のぼるの「旅人よ」、中条きよしの「酒ごころ」ほかの新曲が続き、フィナーレは全員
で合唱する「旅愁」。

昭和52年11月28日

①「300回記念第3弾！」 #300

②五木ひろし、八代亜紀、森田公一、新沼謙治、アイ・ジョージ、殿さまキングス、朝丘雪路、中尾ミエ

③「よこはまたそがれ」(五木)、「なみだ恋」(八代)、「なみだの操」(殿さま)、「可愛いベイビー」(中尾)

④ 三百回記念月間シリーズの第三弾は、五木ひろし、八代亜紀、殿さまキングス、朝丘雪路、アイ・ジョージらを迎えて送る。

第一部はデビュー曲特集で、五木、八代らがデビューの思い出を語る。曲は五木が「よこはまたそがれ」、八代が「なみだ恋」、殿さまキングスが「なみだの操」。

”今週のとおき”は昭和33年2月1日、テレビ朝日(当時NETテレビ)が開局した当日に出演した朝丘に花束を贈り、司会者・宍戸錠らが思い出を聞く。

”思い出のポップスメロディー”は中尾ミエの「可愛いベイビー」ほか。

昭和52年12月5日

①「300回記念!突如ものまね大会に…!?!」 #301

②八代亜紀、細川たかし、森田公一とトップギャラン、新沼謙治、殿さまキングス、アイ・ジョージ、小野ヤスシ、中尾ミエ

③「おもいで岬」(新沼)、「硝子のジョニー」(細川・小野・新沼)、「青春時代」(トップ・細川・新沼・八代・中尾)、「過ぎてしまえば」(トップ)

④ 三百回記念月間シリーズの最終回は、殿さまキングス、森田公一とトップギャラン、八代亜紀、アイ・ジョージらの出演で送る。

”デビュー曲特集”は新沼謙治の「おもいで岬」ほか。

”今週のラブスポット”は、新沼にゆかりの深い人が登場、秘められた愛情と友情を語る。

”思い出の歌”はアイ・ジョージが登場、細川たかし、小野ヤスシ、新沼が競演する「硝子のジョニー」のものまねを審査する。続いてトップギャランが「青春時代」を細川、新沼、八代、中尾ミエと共演する。フィナーレはトップギャランの新曲「過ぎてしまえば」。

昭和52年12月12日

①「御対面続々!裕次郎マッサオ!!」 #302

②森昌子、南田洋子、浅野ゆう子、青江三奈、小野ヤスシ、桂五郎、石原裕次郎

③「東京ナイトクラブ」(石原・青江)、「出船」(石原・森)、「誰もいない海」(石原・小野寺)、「俺は待ってるぜ」(石原)、「赤いハンカチ」(石原)、「夜霧よ今夜も有難う」(石原)、「北から南から」(桂)、「春の岬」(森)、「みなとブルース」(青江)、「霧の波止場」(石原)

④ 特別ゲストに石原裕次郎を迎え、青江三奈、森昌子、小野ヤスシほかの出演で送る。

第一部は石原と女性歌手との共演コーナーで、曲は青江と「東京ナイトクラブ」、森と「出船」。

”ラブ・スポット”は、石原のヨット仲間たちが石原のプロフィールを語り、女性共演者が秘話を披露。続いて”思い出の映画主題歌集”では、石原が「俺は待ってるぜ」「赤いハンカチ」「夜霧よ今

昭和52年

夜も有難う」などを披露。

新曲コーナーは、桂五郎が「北から南から」、森が「春の岬」、青江が「みなとブルース」、石原が「霧の波止場」を歌う。

同月14日付読売新聞東京版朝刊に「裕次郎に円熟した男の味」との見出しによる記者のコラムが載っている。

テレビ朝日の「新にっぽんの歌・花のスタジオセブン」(月曜=後9・00)は、スタート以来、どうもいま一つ魅力に乏しいうらみがあったが、石原裕次郎を特別ゲストに迎えた十二日は、出色の楽しさだった。

構成としては、特に凝った趣向があったわけではなく、“御対面”、昔の思い出、ヨットレースの話、歌などでつづっただけのものだが、随所に石原裕次郎の“素”の魅力が感じられて、飽きなかった。

(中略)

もっともこの種の番組にはよくあることだが、石原裕次郎の部分が楽しく出来ていた分だけ、ほかの歌手たちの出演場面は、いかにもつけ足しの感じになってしまった。いっそ終始ひとりの歌手に焦点を合わせる作り方にすればいいものをと、またしても思わされた。

昭和52年12月19日

①「バンマス豊岡、大混乱!!」 #303

②北島三郎、八代亜紀、細川俊之、西川きよし、前川清、雪村いづみ、内山田洋とクール・ファイブ、アローナイツ

③「終着駅」(八代)、「バナナボート」(北島)、「北の宿から」(雪村)、「雪が降る」(クール)、「昭和枯れすすき」(細川・雪村)、「風まくら」(細川)、「献身」(アロー)、「娘よ君の生まれた日」(今)

④ 細川俊之、西川きよしをゲストに迎え、雪村いづみ、北島三郎、内山田洋とクール・ファイブ、八代亜紀らの出演で送る。

オープニングは、八代の「終着駅」ほか。

続く”全員チャレンジ歌合戦”では、出演者全員が持ち歌以外の歌に挑戦する。曲は北島が英語で歌う「バナナボート」、雪村の「北の宿から」、クール・ファイブの「雪が降る」ほか。

また最近、歌の方でも活躍中の細川が雪村と「昭和枯れすすき」をデュエットし、新曲「風まくら」を披露する。

曲は他に「献身」(アローナイツ)、「娘よ君の生まれた日」(今陽子)など。

昭和52年12月26日

①「西川きよし夫妻に全員ホロリ!でも…!?!」 #304

②八代亜紀、野口五郎、前川清、森昌子、ちあきなおみ、西川きよし、西川ヘレン

③「風の岬」(野口)、「春の岬」(森)、「愛妻物語」(西川きよし)、

「銀座の恋の物語」(西川きよし・ヘレン)、「勝手にしやがれ」(野口)、「津軽海峡冬景色」(八代)、「ペッパー警部」(ちあき)、「昔の名前で出ています」(森)、「お正月」(全員)

④ ゲストにコメディアン西川きよし、ヘレン夫妻を迎え、ちあきなおみ、野口五郎、森昌子、八代亜

紀らが今年のヒット曲を披露。歌の合間に西川きよしがインチキ音楽評論家に扮し怪しげな評論を。

第一部は野口が「風の岬」、森が「春の岬」とそれぞれ新曲を歌った後、西川きよし「愛妻物語」を歌い、「銀座の恋の物語」をヘレン夫人とデュエットする。

第二部は今年のヒット曲特集で、野口の「勝手にしやがれ」、八代の「津軽海峡冬景色」、今陽子、ちあきなおみの「ペッパー警部」、森の「昔の名前で出ています」ほか。

フィナーレは、全員で「もういくつ寝ると」を合唱。

昭和53年1月2日

- ①「爆笑！民謡の祭典バカ受け福笑い大会」 #305
- ②五木ひろし、森進一、前川清、桜田淳子、森昌子、泉ピン子、内山田洋とクール・ファイブ
- ③「花笠音頭」(五木・森昌子)、「秋田音頭」(桜田)、「おてもやん」(泉)、
「長崎は今日も雨だった」(クール)、「ハッピーニューイヤー」(不明)
- ④ 新春第一回は五木ひろし、森進一、内山田洋とクール・ファイブ、森昌子、桜田淳子、泉ピン子らの出演で送る。

まず新春民謡合戦でスタート。曲は五木、森昌子の「花笠音頭」、桜田の「秋田音頭」、泉の「おてもやん」ほか。

続いて内山田洋とクール・ファイブが視聴者のリクエスト曲「長崎は今日も雨だった」を披露。更に男女二組に分かれ正月らしく福笑いに挑む。

” 今日だけのオリジナル” は曾根幸明作曲「ハッピーニューイヤー」。

昭和53年1月9日

- ①「ピン子涙の対面！！昌子淳子物まね対決！！」 #306
- ②五木ひろし、森進一、前川清、小野ヤスシ、森昌子、桜田淳子、泉ピン子、
内山田洋とクール・ファイブ
- ③「恋する夏の日」(森昌子)、「赤い風船」(桜田)、「せんせい」(桜田)、「わたしの青い鳥」(森昌子)、
「千曲川」(五木)、「港町ブルース」(森進一)、「灯りが欲しい」(五木)
- ④ 五木ひろし、森進一、森昌子、桜田淳子、泉ピン子、内山田洋とクール・ファイブ、小野ヤスシらの出演で送る。

第一部は” 昌子・淳子おんなの対決！” 。森昌子と桜田がものまねや持ち歌交換などで勝敗を競う。ものまねは森昌子が天地真理の「恋する夏の日」、桜田が浅田美代子の「赤い風船」。持ち歌交換は桜田が「せんせい」、森昌子が「わたしの青い鳥」。

視聴者のリクエスト曲は五木の「千曲川」、森進一の「港町ブルース」。

” ラブ・スポット” は泉の巻。泉が下積み時代に通った東京・五反田のパチンコ屋店員奥田さん夫妻が不遇時代の泉のエピソードや人柄を語る。

フィナーレは五木の「灯りが欲しい」。

昭和53年

昭和53年1月16日

①「御対面特集！ジュリーの爆笑浪曲大会」 #307

②小林旭、都はるみ、布施明、和田アキ子、沢田研二、服部克久、前田勝之助夫妻、中田喜子

③「憎みきれないろくでなし」(沢田)、「夜更けのレストラン」(和田)、

「もう一度一から出なおします」(小林)

④ 小林旭、都はるみ、布施明、沢田研二、和田アキ子らの出演で送る。

沢田が「憎みきれないろくでなし」、和田が「夜更けのレストラン」を歌った後、“ラブ・スポット”を特集。まず、小林の友情やエピソードなどを作曲家服部克久が語る。続いて都に浪曲を特訓したことのある前田勝之助夫妻が登場、特訓のエピソードや、「北の宿から」のヒットの秘話を紹介する。

また、司会の小野寺昭のプロフィールや魅力を、「太陽にほえろ！」で小野寺の妹役を演じている女優中田喜子が語る。

フィナーレは小林の「もう一度一から出なおします」。

昭和53年1月23日

①「新沼感激の初段！森も対決！！」 #308

②水前寺清子、松崎しげる、内藤国雄、アン・ルイス、森進一、新沼謙治、曾根幸明

③「北挽歌」(新沼)、「偽りのバラード」(松崎)、「雪の渡り鳥」(水前寺)、「スキー」(松崎・アン)、

「雪の降る町を」(森)、「トロイカ」(水前寺清子ら五人)、「娘よ、君の誕生日だ」(今・曾根)

④ 水前寺清子、森進一、アン・ルイス、新沼謙治、松崎しげるの出演で“雪のうた”を特集。

新沼の「北挽歌」、松崎の「偽りのバラード」に続く“ラブ・スポット”は、新沼が内藤国雄九段と将棋対局をした時の棋譜係、時間係の二人の青年が登場、当時の思い出を語る。

シーズンにちなんだ“雪のうた”特集は、水前寺の「雪の渡り鳥」、松崎とアンの「スキー」ほか。

“今日だけのオリジナル”は、杉紀彦作詞、曾根幸明作曲の「娘よ、君の誕生日だ」を今陽子と曾根が、かけあいで歌う。

昭和53年1月30日

①「御対面金やんソワソワ郷、村田K〇か？」 #309

②野村克也、松本ちえこ、ガッツ石松、南田洋子、アイ・ジョージ、殿さまキングス、郷ひろみ、

松本ちえこ、金田正一、有藤通世、村田兆治、金田留広、南田洋子、曾根幸明

③「津軽海峡冬景色」(金田留広)、「金田正一に捧げる歌」(曾根幸明)、「ビバ・オリオンズ」(全員)

④ アイ・ジョージ、殿さまキングス、郷ひろみ、松本ちえこ、ガッツ石松の他、プロ野球ロッテ球団

の金田監督はじめ野村、有藤、村田らのスタープレーヤーがゲスト出演し、得意ののどを披露したり、しりとり合戦を繰り広げる。

オープニングは、金田留広、村田—野村のバッテリー、有藤、山崎らが守る布陣で、郷、松本らがバッティングを披露する“野球大会”。元気になった松本は、金田監督を相手にバッティングを披露する。

“ラブ・スポット”は女優南田洋子が登場、金田監督が慰問に行った重度障害児施設のお礼の手紙を朗読する。そのあと金田留広の「津軽海峡冬景色」、曾根幸明の「金田正一に捧げる歌」などが続き、ラストは全員で合唱するロッテ球団の応援歌「ビバ・オリオンズ」。

昭和53年2月6日

- ①「涙！感激！ピンクレディー大量御対面！！昔のラブレターも出現」 #310
- ②ちあきなおみ、南沙織、ピンクレディー、渡真介、平野雅昭
- ③「ペッパー警部」（ピンク）、「渚のシンドバッド」（ピンク）、「ウオンテッド」（ピンク）、「UFO」（ピンク）、「あまぐも」（ちあき）、「春の予感」（南）、「青葉茂れる」（渡）
- ④ ピンクレディー、南沙織、ちあきなおみ、渡真介、平野雅昭らの出演で送る。
まず、ピンクレディーのヒットメドレーで幕開き。曲は、「ペッパー警部」「渚のシンドバッド」「ウオンテッド」。
- ”ラブ・スポット”は、ピンクレディーの中学の同級生たちが、ミーとケイの勉強ぶりやエピソードを語り、中学三年生の時のそれぞれの担任の先生と二人が感激の対面をする。
- 曲は他に「UFO」（ピンクレディー）、「あまぐも」（ちあき）、「春の予感」（南）、「青葉茂れる」（渡）など。

昭和53年2月13日

- ①「真剣！！森と五木の結婚は？占い師集合／爆笑！角川珍演」 #311
- ②都はるみ、石川さゆり、森進一、五木ひろし、角川博、遠藤良春、マリー・オリギン、横井伯典、竜豊道人
- ③「沈丁花」（石川）、「旅姿三人男」（都）、「人間の証明」のテーマ（五木）、「東京キッド」（森）、「津軽海峡冬景色」（石川）、「旅の終りに」（遠藤）、「道づれ」（角川）、「潮どき」（五木）
- ④ 都はるみ、森進一、五木ひろしの三人に石川さゆり、角川博、遠藤良春を加えた顔ぶれで送る。
第一部は石川が新曲「沈丁花」を歌い、続く”ラブ・スポット”で、森の主治医渡部先生が森の健康状態や病気にまつわるエピソードを披露、マリー・オリギン、横井伯典、竜豊道人の三人の占い師が森の金銭運、恋愛、結婚運などを占う。
- 第二部は”ボーシで勝負”をテーマに、出演者がさまざまな帽子をかぶって登場、帽子のムードに合わせた曲を18曲メドレーで歌う。曲は都が「旅姿三人男」、五木が「人間の証明」のテーマ、森が「東京キッド」、石川が「津軽海峡冬景色」ほか。
- 新曲コーナーは遠藤の「旅の終りに」、角川の「道づれ」、五木の「潮どき」。

昭和53年2月20日

- ①「八代、五郎、ゆかりものまねチャンチャカ節！！」 #312
- ②チェリッシュ、布施明、平尾昌晃、野口五郎、八代亜紀、平野雅昭、春日三球・照代、前田武彦、伊東ゆかり、中条きよし
- ③「愛よ甦れ」（野口）、「行ったり来たり」（チェリッシュ）、「演歌チャンチャカチャン」（八代）、「ロマンチスト」（伊東）、「今夜は気取って」（布施）
- ④ 布施明、野口五郎、八代亜紀らの他、「演歌チャンチャカチャン」の平野雅昭、「地下鉄漫才」で売り出した春日三球・照代の出演で送る。
三球・照代の漫才に続いて、野口が「愛よ甦れ」、チェリッシュが「行ったり来たり」の新曲を歌う。
- ”ラブ・スポット”は、先ごろ”坊主アタマ宣言”で話題をまいた前田武彦がチェリッシュのエピ

昭和53年

ソードなどを語る。

”スター爆笑大賞”では「演歌チャンチャカチャン」を歌う八代、漫才をやるチェリッシュらが、平野や三球・照代に助けられながらの熱演。

曲は他に「ロマンチスト」（伊東ゆかり）、「今夜は気取って」（布施）など。

昭和53年2月27日

①「涙！涙！由貴子感激の御対面」 #313

②森進一、小柳ルミ子、森昌子、和田アキ子、橋幸夫、天馬ルミ子、清水由貴子

③「甘ったれ」（森進一）、「父娘草」（森昌子）、「真っ赤な太陽」（和田）、
「月がとっても青いから」（森昌子）、「カラーに口紅」（清水・天馬）、「泥んこ」（橋）

④ 歌手生活18年の橋幸夫から一年生の天馬ルミ子まで、ベテランや中堅、新人が登場、今年にけるヒット曲の数々を披露する。

森進一が「甘ったれ」、森昌子が「父娘草」とそれぞれ新曲を歌い、次の”ラブ・スポット”では清水由貴子が東京・蔵前中学校時代の恩師や同級生と対面、当時のエピソードなどを語る。

”イロイロ音楽会”では色に関係ある曲を披露。曲は、和田アキ子の「真っ赤な太陽」、森昌子の「月がとっても青いから」、清水と天馬の「カラーに口紅」など。更に橋が登場し、「泥んこ」を歌う。

昭和53年3月6日

①「秀樹汗ダク！郁恵恥ズカシ謙治飛んでけ！挑戦！人形浄ルリ／花の狂騒曲」 #314

②水前寺清子、細川たかし、西城秀樹、新沼謙治、高田みづえ、榊原郁恵、麻生よう子

③「あなたと愛のために」（西城）、「花しぐれ」（高田）、「花と蝶」（西城）、「ひなげしの歌」（高田）、
「バラが咲いた」（麻生）、「愛の音」（麻生）、「遠い灯り」（細川）、「虚空太鼓」（水前寺）

④ 水前寺清子、西城秀樹、新沼謙治、高田みづえ、榊原郁恵らの出演で送る。

西城が「あなたと愛のために」、高田が「花しぐれ」の新曲を歌った後、”ラブ・スポット”は、榊原が在学中に入っていた神奈川県・厚木東高校の浄瑠璃同好会が登場、当時の思い出を語り合い、榊原、水前寺、西城らが人形浄瑠璃を演ずる。

続いて花の歌特集。西城ら6人が、花を題名にした歌や花を歌詞によみ込んだ歌15曲の競演。曲は西城の「花と蝶」、高田の「ひなげしの歌」、麻生よう子の「バラが咲いた」他。

ラストコーナーは麻生の「愛の音」と細川たかしの「遠い灯り」、水前寺の「虚空太鼓」。

昭和53年3月13日

①「ダンスにキスに甘いデュエット！ひばり、狩人、初顔合わせ！！」 #315

②美空ひばり、狩人、黒田征太郎

③「乗るかえ駅の夜は更けて」（美空）、「流れのギター姉妹」（美空）、「風の恋人たち」（美空・狩人）、
「素敵なランデブー」（美空・狩人）、「初恋マドロス」（美空）、「青春物語」（狩人）、
「悲しい酒」（美空）

④ 美空ひばりをメインゲストに迎え、ヒット曲の数々と新曲を披露する他、狩人が美空と共演し、デュ

エットする。

まず美空が「乗りかえ駅の夜は更けて」と「流れのギター姉妹」の二曲を歌い、狩人が加わって「風の恋人たち」「素敵なランデブー」をデュエット。狩人が初共演の感想を語る。

また、美空のファンだというイラストレーター黒田征太郎さんがひばりメロディーの魅力の源泉、美空との出会いのエピソードなどを語る。

その後、美空が「初恋マドロス」など三曲をメドレーで、狩人が新曲「青春物語」を歌い、ラストは美空の「悲しい酒」ほか。

昭和53年3月20日

①「驚異7つの顔登場！！爆笑ハキモノ音楽会」 #316

②小林旭、五木ひろし、岩崎宏美、石川さゆり、森田公一とトップギャラン、高田みづえ

③「二十才前」(岩崎)、「沈丁花」(石川)、「花しぐれ」(高田)、「夢ん中」(小林)、「伊豆の佐太郎」(五木)、「絹の靴下」(岩崎)、「日和下駄」(石川)

④ 五木ひろし、小林旭、石川さゆり、岩崎宏美、高田みづえらの出演で、懐かしい歌、新しい歌の数々を送る。

まず岩崎が「二十才前」、石川が「沈丁花」と新曲を歌い、続く”ラブ・スポット”コーナーでは高田、小林がそれぞれゆかりの人たちと対面し、その合間に高田が「花しぐれ」、小林が「夢ん中」を披露する。

特集は、くつ、げた、わらじなど履物に関係ある歌14曲で、曲は五木の「伊豆の佐太郎」、岩崎の「絹の靴下」、石川の「日和下駄」ほか。

昭和53年3月27日

①「最終回！ものまね決定版・挑戦！体力限界歌合戦」 #317

②西城秀樹、八代亜紀、黒沢年男、和田アキ子、高松しげお、宮尾すすむ、荒木由美子、樋口夏

③「あなたと愛のために」(西城)、「コーラスガール」(和田)、「硝子のジョニー」(高松)、「UFO」(宮尾)、「フラストレーション」(荒木)、「マドンナの城下町」(樋口)、「時には娼婦のように」(黒沢)、「愛の条件」(八代)

④ 和田アキ子、八代亜紀、西城秀樹、黒沢年男らと新人歌手八人を加えた顔ぶれで、ものまね、体力テストつき”ウタソン”などを送る。

まず西城が「あなたと愛のために」、和田が「コーラスガール」を歌う。

続いての”ものまね”コーナーでは高松しげおがアイ・ジョージの「硝子のジョニー」、宮尾すすむがピンクレディーの「UFO」などを歌う。

新人歌手の体力テストつき”ウタソン”コーナーでは、風船自転車をこぎながら荒木由美子が「フラストレーション」、腹筋運動をしながら樋口夏が「マドンナの城下町」ほかを歌う。

さらに黒沢が「時には娼婦のように」、八代が「愛の条件」を披露する。